



クラシノソコアゲ応援団! RENGO キャンペーン 全道キャラバン通信

NO. 61 2018. 6. 1 発行責任者 連合北海道組織労働局

働き方改革関連法案 衆議院通過に抗議!!



働き方改革関連法案の衆議院通過に抗議する連合北海道の杉山事務局長

連合北海道は、働き方改革関連法案が衆議院本会議で可決された5月31日、緊急街頭集会を開催した。長時間労働を助長する懸念がある高度プロフェッショナル制度(高プロ)が、働き方改革関連法案から削除されないまま衆議院を通過したことに対し、強く抗議した。

冒頭、連合北海道の杉山事務局長は、「国会で議論されている働き方改革は、われわれ働く者の立場にたった改革であるべきだ。23日に行われた衆議院厚生労働委員会での強行採決、本日の衆議院本会議での可決は、この法案が十分に議論されておらず、労働者の権利を踏みにじるような国会運営である。」と、強く訴えた。

また、「高プロは、年間104日の休日を義務づけられているが、月4日の休日以外は、1日24時間働かせられ放題の内容である。長時間労働を助長し、過労死を招くような制度である。」と述べ、法案削除の取り組みをより一層強化する必要性を述べた。

連帯の挨拶で立憲民主党北海道連合の林労働局長(札幌市議会議員)は、「労働者派遣法にみられるように、法律は施行された後、どんどんと要件を緩和する流れになっている。高プロは、年収1075万円以上が対象となっているが、この年収要件は、いずれ引き下げられる危険性がある。」と将来、年収制限を引き下げ、対象の労働者が拡大する懸念を述べた。

また、国民民主党北海道の三津選挙対策委員長(北海道議会議員)は、「働き方改革法案の議論の場は、参議院に移った。政府は、数の横暴で会期を延長してでもこの法案を強行に成立させるだろう。我々は、法案削除に向けて世論を高めていく運動をしていかなければならない。」と決意を述べた。最後に連合北海道の齊藤副事務局長の音頭で団結ガンバローを三唱し、高プロ削除を求めて闘い続けることを確認した。



小雨が降る中、集会には約100名が参加。強引な国会運営と高プロの危険性に耳を傾けた。